

令和 4 年度

石川未来プロジェクト事業
成果報告書

活動のタイトル

石川ファンカード

指導教員の所属・職・氏名

- ・金沢工業大学 建築学部 建築学科 教授 山岸邦彰
- ・金沢工業大学 工学部 環境土木工学科 准教授 花岡大伸

参加した学生氏名・役割

- ・金沢工業大学情報フロンティア学部心理科学科 2回生 前田響紀（リーダー）
- ・金沢大学数物科学類 2年 釣谷優太（副リーダー）
- ・金城大学医療健康学部理学療法学科 3年 片山香凜（書記）
- ・石川高専建築学科 4年 澤田慶太（学生コーディネーター）
- ・金沢大学フロンティア工学類 2年 篠嶋大樹（学生コーディネーター）
- ・金沢大学医学類 1年 中越真央（書記）

1. 活動の成果要約

本チームでは、未来テーマ「2050年における石川県の人口100万人」を達成することを目的に、「子供を含む若者世代の増加」というアプローチで活動を行った。本活動では、現在問題となっている「若者世代の減少」、また「若者世代の都内進出」に着目し、SDGsの開発目標の1つである「住み続けられるまちづくりを」も同時に達成できるような案の創出を意識し、チーム全員で活動に取り組んだ。最終的に提案したアイデアは、“石川ファンカード”を通じた人的・金銭的・情報ネットワークを構築し、石川県内への就職支援や定住を視野に入れた各種イベントの提供に加えて、全国の石川ファンとのコミュニティを築くものである。このアイデアは、“カードが人を繋ぎ生活の質を向上させる”をコンセプトに、県内在住者のみならず全国の石川ファンにもサービスを提供することで、県内定住者や関係人口の増加に資するものである。

2. 活動の目的

現在、全国で問題視されている“少子高齢化”において、石川県は将来の人口減少に課題を抱えている。その課題を解決する手段を考えることが本活動における主な目的である。具体的に、人口が減少する原因として、「若い世代の減少」、「他府県への流出人口の増加」が挙げられた。若者に対して“出会いの場の提供”や“金銭面での支援”、“県内での就職支援”といったサービスを提供できないかと考えた。我々のチームでは、この解決案を実施して、若者世代に石川県の魅力を発信するとともに、継続して住み続けてもらえるようにすること、また将来的に他県に対しても情報発信等を行い、他県からの流入人口を増加させることが本活動を実施するにあたっての活動目的（ゴール）である。

3. 活動の内容

本活動を実施するにあたり、チームAでは「“若者”が将来的にも住み続けたいくなるようなシステムの構築」を骨子として活動を実施した。チームAの主な年間活動履歴は下記の通りである。

チーム A の主な年間活動履歴

4月	石川未来プロジェクトのメンバー募集
5月	石川未来プロジェクトのメンバー選考（チーム分け、顔合わせ）
6月	チーム「FUTABA」として活動を実施 活動方針の話し合い 6つのテーマごとの情報収集（約1ヶ月にわたり、実施した） 解決案の創出（ブレインストーミングを用いてのアイデア出し）
7月	空き家アイデア（案）と地域通貨アイデア（案）に分かれての活動 テーマごとの詳細情報の収集、解決案の創出 中間報告資料の作成、発表詳細の確定 中間報告会&FB（7/30 しいのき迎賓館にて開催）
8月	中間報告会におけるFBをもとに今後の方針について再度検討 不足情報の整理、情報収集手段の検討（インタビュー、アンケートの企画） SNS(Twitter)を用いての、情報発信を実施
9月	県庁で移住関連の業務を担当している方へのインタビュー インタビュー内容の検討 担当者へのアポ取り インタビューの実施（9/30 オンラインにてインタビュー実施） アイデアへのFB
10月	最終案の深堀
11月	最終案を裏付ける根拠となる情報の収集 学生を対象としたアンケートの実施
12月	最終案のプロトタイプを作成 （カードデザイン検討、試作品の作成） 最終案の現状報告&FB ・青年会議所へのインタビュー（12/16 実施）&FB ・いしかわ結婚・子育て支援財団へのインタビュー（12/22 実施） 活動報告書の作成
1月	最終案の最終修正 最終報告会に向けての発表資料の作成 活動報告書の作成 成果報告会の実施（1/28 しいのき迎賓館にて実施）
2月	石川未来会議にて報告会を実施する予定（2/25）

チーム A では、限られた活動時間と環境の中で、効率良く活動できるのかをメンバー同士で相談しながら、年間の活動を実施した。そのため、チーム FUTABA の特徴として、“分析”と“話し合い”に特に力を注いだ。その結果、チーム間での結束力、また学生同士が話し合える環境を通して、大きく成長できたと感じている。

上記の表に示す通り、年間で計3回のインタビューを実施し、石川県内の学生を対象に意識調査（アンケート）を行った。

諸団体へのインタビュー

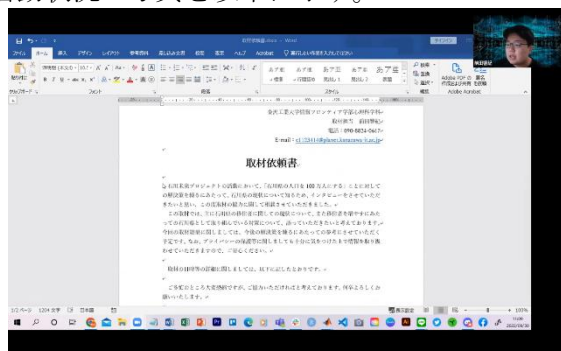
日時	インタビュー協力者	インタビュー目的
9/30	石川県地域振興課 五ノ田 颯也 様 清塚 大輔 様	石川県への移住者に関する動向やこれまでの取組みについてインタビューを実施した。
12/16	公益社団法人金沢青年会議所 金沢市議会議員 小間井 大裕 様 寿観光株式会社 梅村 典彦 様 日光商事株式会社 鴻野 健太 様 姉妹 JC 担当理事 山本 彩加 様 DREAM WORKS 代表取締役 忠田 造兵 様 株式会社ライフイズアート CEO 薛 良平 様	チーム A のアイデア（案）に対して、意見をいただきたく、インタビューを実施した。
12/22	公益財団法人 いしかわ結婚・子育て支援財団 石和 英史 様 村上 昌稔 様	先行事例のプレミアムパスポートの詳細に関するインタビューを実施した。

石川県内の学生を対象に意識調査（アンケート）

対象者	回答者数	アンケートの目的
石川県の学生	628 件 (2023. 01. 03 時点)	就活・育児・金銭面での内容のアンケートを作成した。本アンケートは、現在石川の大学に通っている学生の意識調査を行うことを主な目的とし、また解決案の根拠づけのためにも実施を行い、結果の分析を行った。

4. 活動の成果

活動状況の写真を以下に示す。



石川県地域振興課へのインタビュー



金沢青年会議所でのインタビュー



いしかわ結婚・子育て支援財団でのインタビュー



インタビューの様子

諸団体へのインタビュー

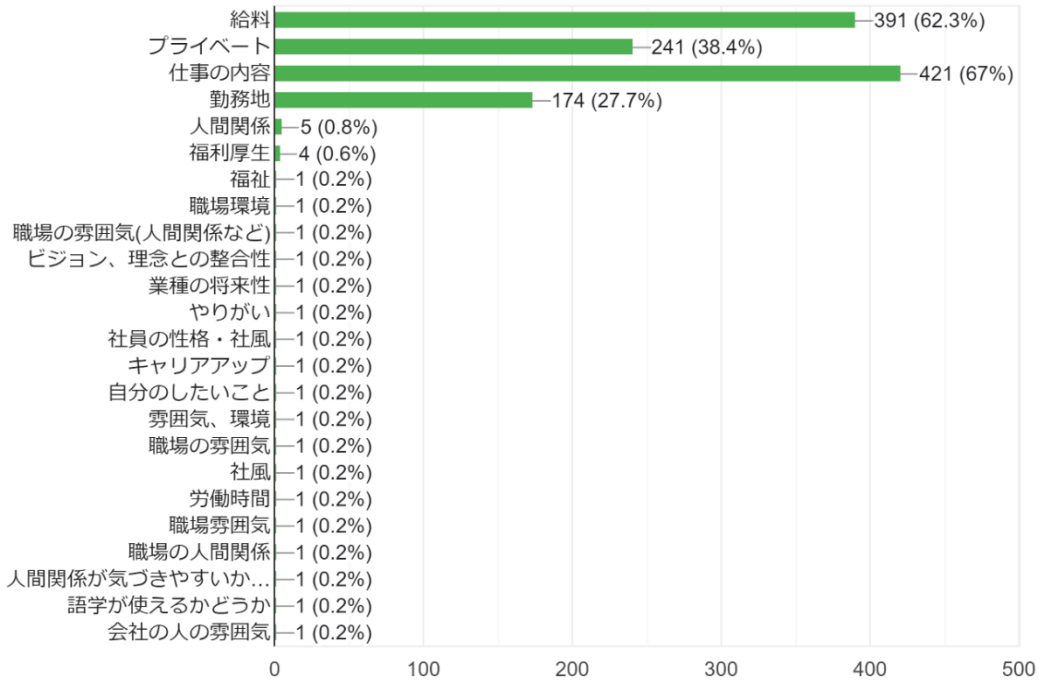
	石川県地域振興課	青年会議所	いしかわ結婚・子育て支援財団
実施方法	オンライン	対面	対面
インタビューの目的	石川県の移住に関する情報収集、現状を把握するために実施した。	チーム A が考案したアイデアに対して、実務家の意見を聴取すること。 実務家が思う人口維持・増加に関する考え方を聴取すること。 チーム A と実務家がディスカッションをして建設的なアイデアを模索すること。	育児・出会いの場に関する現状について把握すること。また本案に類似した既存のアイデアに関する理解を深め、アイデア向上・普及につなげることである。
インタビューの成果	<ul style="list-style-type: none"> ・石川県が現在実施している移住者向け支援や活動について理解を深めることができた。 ・金銭だけの支援サービスでは、財政に負担をかけるので、他のアイデアやサービスもあれば良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードサービスを通して、関係人口を増やしていけば更に良いアイデアになると考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本案に類似した既存策に関しての理解を含めることができた。 ・既存策との比較を行い、よりユーザー視点での施策が必要である。 ・将来的には、様々なサービスを 1 つのカードに集約できると良い。

※赤字：アイデアの最終案を考えるうえで重要視した内容

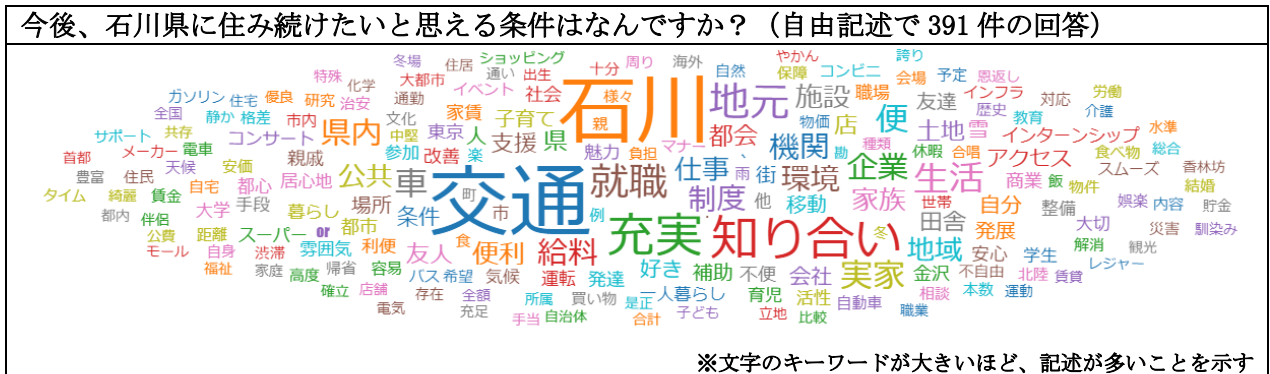
石川県内の学生を対象にした意識調査（アンケート）

就職する上で大切にすることは何ですか？2つ選択してください。

628 件の回答



県内就職に関する意向調査	
石川県内に就職したいですか？	初任給以外にさらに2～3万円支給される場合、石川県に就職したいですか？
<p>● はい ● いいえ</p>	<p>● はい ● いいえ</p>
県内就職希望 45.1%	県内就職希望 62.3% (17.2%増加)

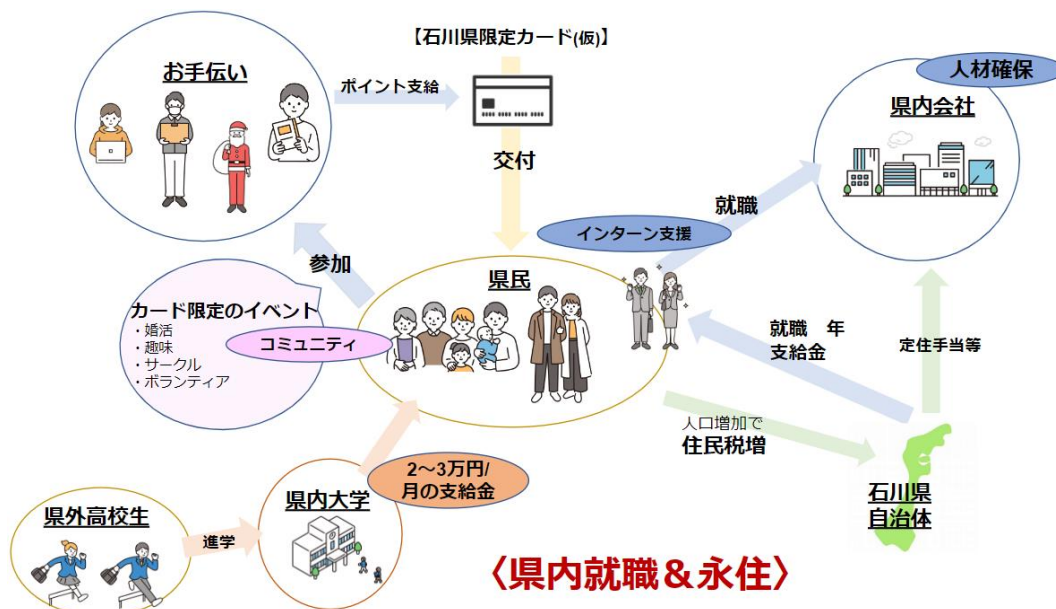


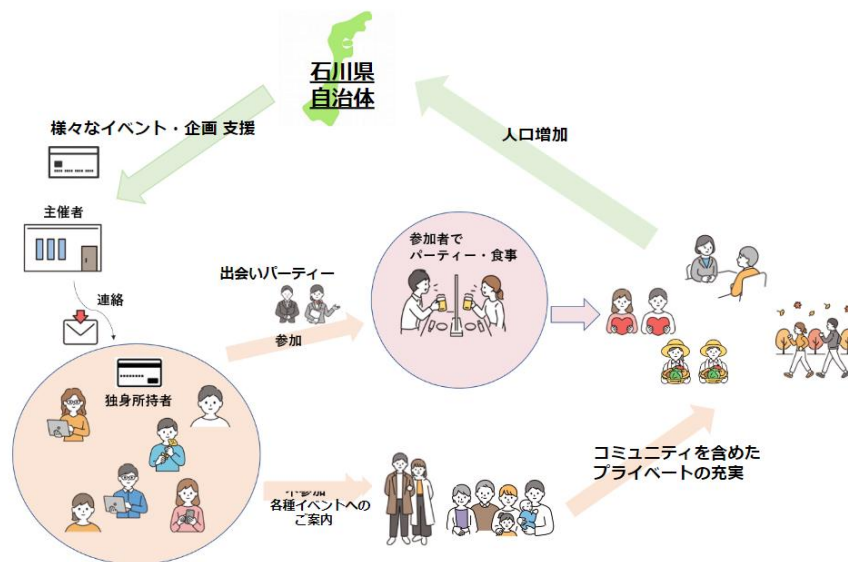
諸団体へのインタビューで分かったこと（参考になったこと）

- 支給金（金銭）だけのアイデアは財政負担を伴うので、行政の立場としては受け容れるのは難しい。支給金以外のサービスもアイデアにあると良い。
- 県内在住者に限らず、県外の人でもサービスを受けられる仕組みがあると良い。結果として、関係人口の増加に繋がる。
- 学生を対象にした意識調査（アンケート）から分かったこと
- 学生が就職を考えるうえで大切にしていることは、仕事内容や給料に次いで**プライベートの充実を意識**していることが分かった。
- 県内就職に関する意識調査から、県内就職を希望している学生は45.1%であった。
- 初任給以外にさらに2～3万円支給される場合、県内就職を希望する学生は62.3%となり、2～3万円の支給金で**県内就職希望の学生が17.2%増加**した。
- 石川県に住み続けたいと思える条件を調査したところ、「交通」「知り合い」「充実」「給料」といったキーワードが多い。

提案する石川ファンカードによる人的・マネー的・情報ネットワークの構築

このカードの目的は「カードが人を繋ぎ、生活の質を向上させること」であり、若者が不自由に感じていることを調査し、需要があることを双方の利益に繋がるような循環型サービスをカード化したものである。





石川県内の事業所（法人住民税を支払っている事業所）に就職した石川県民に対して共通カードを配布し支給金を交付するとともに、様々な石川県内の活動に参加することでポイントが支給され、カードの活用が生活の一部になることを見越している。事前に行ったアンケート結果などから金銭面に関する不安の解消を図るために支給金は欠かせないが、現金を伴わないボランティア、出会いの場を設けるなどの活動で、ポイントというもう一つの価値媒体も用意することで、県民活動の見える化や活性化に繋げる。県民の活性化により、人口減少に歯止めをかけ、人口の流入を促すというものである。

カードの具体的な内容は下記の通りである。

【カードについて】

- ・ 県内事業所に就職した県民に対して 2～3 万円程度の支給金を付与
- ・ 県内の様々な活動に対してポイントが付与
- ・ ポイントを利用できる店舗において、ポイントを現金と同価値として使用可能
- ・ 県民であることが証明され、県オリジナルのイベントに参加可能
- ・ 県外在住者でも「石川ファン」として様々なサービスを受けることができる

またポイントの付与については地域での手伝いを行うことでポイントが付与させる「お手伝いポイント」がある。活動内容は体力や人生経験など個人のスキルに応じた活動である。また、ポイント蓄積機能によって、個人の地域貢献度を定量化できる。

コミュニティの場が少ないということから、カード限定のイベントとして趣味や世代を考慮した場を設けること。結婚状況を調査した結果、結婚していない方が多いことが分かった。このことからカード所持者限定の出会いの場を設け、安心して出会える場を提供することである。

青年会議所にインタビューを行った際に広い視野で関係人口にも着目することで、県内に限らず、石川県の魅力を伝えられるのではないかと考えた。関係人口にもカードを交付し石川県出身者が経営する県外のお店でもカードを使用でき、地元を思い出せる場を作る。また協力店舗のメリットとして、「地元愛」を周知し、石川県出身のお客さんが好んで利用してくれるようなお店が経営できる。

謝辞

本活動において、以下に示す多くの方々からご協力をいただきました。

- 石川県地域振興課 五ノ田颯也様、清塚大輔様
 公益社団法人金沢青年会議所 金沢市議会議員 小間井大裕様
 寿観光株式会社 梅村典彦様 日光商事株式会社 鴻野健太様
 姉妹 JC 担当理事 山本彩加様 DREAM WORKS 代表取締役 忠田造兵様
 株式会社ライフイズアート CEO 藤良平様
 公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団 石和 英史様 村上 昌稔様

ご多用中のところ、インタビューにご協力いただきました。また、活動を進めるうえで、多くの助言を賜りました。ここに記して感謝申し上げます。

5. 活動に対するコーディネーターからの評価

コロナ渦でオンラインによる活動がメインとなったが、メンバー全員で多くの議論ができたことは良かったと思います。また、精力的に諸団体へのインタビューなども行い、本活動を通じて学生が成長していく姿も見ることができました。メンバーが落伍することなく皆が意見を出し合い、常に明るい雰囲気プロジェクトを進められたことが大きい。アイデアも学生ならではのあり、この経験は財産になったのではないかと思われる。

学生が研究・教育機関間の垣根を越えて専門性を発揮し

地域への愛着を深める町家プロジェクト

—20代の転出超過に歯止めをかけることを目指して—

指導教員 石川県立大学 生物資源環境学部 食品科学科 教授 小椋賢治

参加学生 川北輝（北陸先端科学技術大学院大学1年）

吉田成希（北陸大学経済経営学部マネジメント学科3年）

藤井亮介（金沢大学人間社会学域法学類2年）

西彩華（金沢大学理工学域地球社会基盤学類2年）

桐原慎治（金沢大学人間社会学域法学類1年）

中出悠（石川高専4年）

チーム B (Machiya) 成果報告の概要

チーム Machiya コーディネータ

石川県立大学 食品科学科 小椋賢治

チーム B (Machiya) は、「学生が研究・教育機関間の垣根を越え、専門性を活かしつつ、地域住民・観光客と継続的に交流を深められる町家プロジェクト」をテーマとしてプロジェクトを実施しました。5月から7月にかけて、ブレインストーミングおよび先行事例の調査を行い、チームの方向性を決定しました。10月と11月には京都と金沢で、フィールドワークとインタビューを実施し、大学における町家の活用事例および大学と商店街のコラボレーションについて学びました。これらの活動の成果として、「石川県の特徴ある文化遺産としての町家を活動拠点に置き、学生と地域住民の交流を活性化し、その活動を通じて若い世代の石川県への定着を図る」ことを提言としました。

① 活動報告

◇目次

(i) キックオフ

(ii) 成果報告①「京都・伏見大手筋商店街及び竜馬通り商店街へのインタビュー」

(iii) 成果報告②「京都・龍谷大学町家キャンパスへのインタビュー」

- (iv) 成果報告③「金沢・町家情報館へのインタビュー」
- (v) 活動記録
- (vi) ゴール・提言

(i) キックオフ

報告者：中出悠

チーム「Matiya」のプロジェクトの進め方

議事録や進捗状況の記録として、二つのツールを用途別に使用した。

Slack 用途：連絡事項や相談など / miro 用途：議事録や調査のまとめなど



(<https://www.slack.com>)



(<https://www.miro.com/>)

会議の進め方・形式

自身の考えを他者と共有したり、他者の意見を参考にして自分のアイデアを磨いたりすることを目的として、ブレインストーミング形式で会議を進めた。

[大まかな流れ]

5月（活動開始）～7月（中間報告会）

対面でのブレインストーミングを繰り返し、チームの活動方針決定を行った。

10月・11月

京都と金沢での先行事例の調査をメインにフィールドワークを行った。

12月・1月

総まとめとしてオンライン会議をメインに資料作成を行った。

[チームの活動方針決定の流れ]

6月11日の初回ミーティングは、しいのき迎賓館に集まり、対面ミーティングとなった。この日はメンバー6人がそれぞれ「私が考える石川の未来」をテーマにアイデアを持ち寄り、ブレインストーミングを行った。会議を進めるうちに、「商店街復興の案をもとに色々な要素を加えていくことが効果的だ」という結論になり、方向性が決まった。しかし、この段階で案を固めるには早計なので、次のミーティングまでに人口減少対策を行なっている先行事例を各自調べることを課題として解散した。



6月23日のミーティングでは、各自調べてきた人口減少対策事例を共有し、ブレインストーミングを行った。「起業支援」「空き家」「子育て支援」など共通するキーワードを抜き出し、今後の活動で行う提案の有効性を検討する判断材料とした。



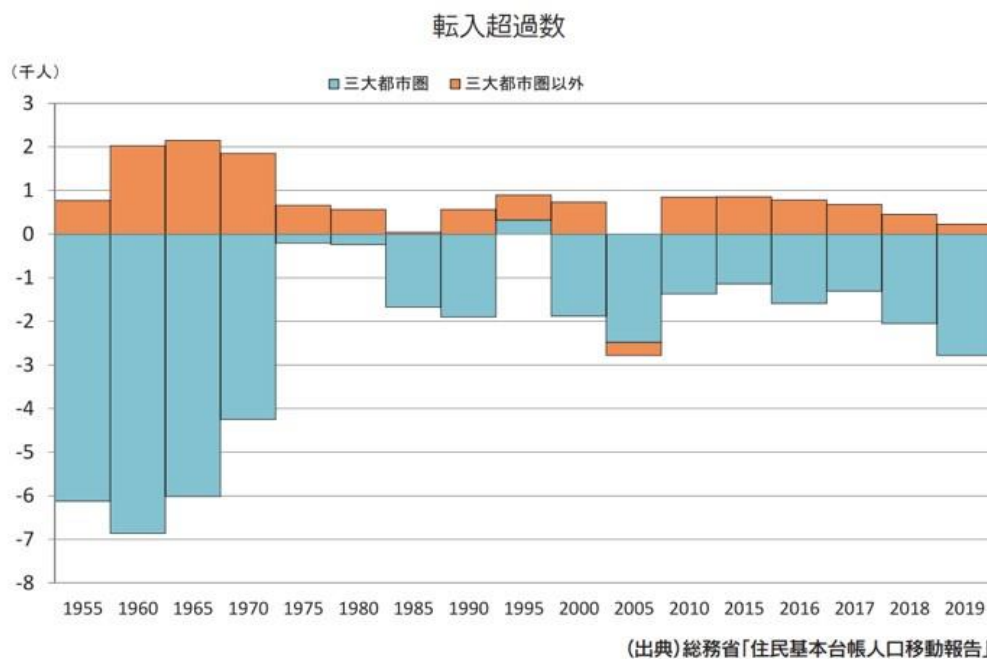
7月10日のミーティングでは、商店街や空き家にキーワードを絞り、各自で政策を考え、ブレインストーミングを行った。チームの活動方針を、「学生の専門性を活かした空き家活用プロジェクト」に決定し、中間報告会の準備を進めた。この日はコーディネーターの小椋先生に連れられ昼食に近くのカレー店に行き、中間報告会に向け、チームの親睦も深めた。



チーム Machiya の石川県の現状分析

[転出超過について]

石川県における転入・転出の状況を、東京圏・名古屋圏・大阪圏を合わせた三大都市圏とそれ以外に分けると、概ね三大都市圏への転出超過、それ以外が転入超過となっている（石川県, 2020）。



(出典: 石川県, 2020 https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kikaku/keikaku/documents/r2_vision_honbun.pdf より)

また、石川県は高等教育機関が集積しているため、大学進学時に県外からの転入者が多いものの、大学卒業後の就職等を機に県外へと転出する者も多い（石川県, 2020）。

引用文献

石川県 (2020). いしかわ創生人口ビジョン改訂版 Retrieved from

https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kikaku/keikaku/documents/r2_vision_honbun.pdf

(2023年1月24日 閲覧).

(ii) 京都・伏見大手筋商店街及び竜馬通り商店街へのインタビュー

参加者: 川北輝・中出悠・吉田成希

報告者: 川北輝

インタビューに応じていただいた方: 藤原 様

龍谷大学が地域創生に取り組んでいるという情報をもとに、京都市の伏見大手筋商店街及び竜馬通り商店街の調査を実施した。6軒のお店の方から話を聞き、3軒から地域創生に関連する情報を得た。伏見大手筋商店街は過去に何度か龍谷大学の一部のゼミとコラボレーションをしており、学生の育成と地域貢献を効果的に行っている。例えば、外国人観光客向けの英語パンフレット（観光案内）を作成・配布している。

しかし、新型コロナウイルス感染症の蔓延後は大学とコラボレーションする機会が激減した。



外国人観光客向けのパンフレット
(龍谷大学, 2017) より

商店街振興組合の元会長に口頭でのインタビュー

竜馬通り商店街で「青果店ふじわらや」を営む、商店街振興組合元会長に、「学生が商店街に貢献できること」をテーマにインタビューを行った。

- Q. 龍谷大学が商店街とコラボレーションをして、地域創生に取り組んでいるとうかがったのですが、何かご存知ですか？
- A. 2年ぐらい前に龍谷大学の学部かゼミの協力で、商店街に花を装飾する「花回廊プロジェクト」というイベントがありました。京都で有名な花灯籠(※)を模したもので、たしか区役所とも協力していたと思います。

龍谷大学(2020)によれば、龍谷大学社会学部の実習科目であるコミュニティマネジメント実習の「京都伏見まちづくりプロジェクト」の一環で、竜馬通り商店街と納屋町商店街を花で飾る「花回廊プロジェクト」を2020年11月から12月にかけて実施している。

※ 京都・花灯路推進協議会(2022)は平成14年度から、閑散期の誘客や夜観光・宿泊観光の促進を目的として、「京都・花灯路」事業を開始しており、「東山花灯路」や「嵐山花灯路」などがある。

Q. なるほど。商店街と龍谷大学のこれまでのコラボレーションはいつ頃から始まったのですか？

A. 20年ほど前から経済学部ゼミ生さんと一緒にイベントごとをしていたと思います。ここ（竜馬通り商店街）だけではなくて、各商店街の通りごとに、色々な活性化プロジェクトをしていましたね。龍谷大学さんは関わっていないけれど、最近は「夏の夜市」というイベントがあって、皆色んなところとコラボレーションしていますよ。

Q. イベントやコラボレーションをたくさんしているんですね。その原動力は商店街を盛り上げたいという思いからきているのでしょうか？

A. 根本はそうですね。11月に竜馬祭というイベントがあって、そこでは高校のマーチングバンドと組んで、お客さんを楽しませようと考えています。商店街同士が協力して、ここら一帯を盛り上げようと話し合いを続けていますよ。

Q. 今後、商店街と大学が効果的なコラボレーションをするためには、どうすれば良いと思いますか？

A. 学生さんとはとにかくやりたいことをすれば良いと思います。こちらは若い人材やアイデアがほしいとか、学生の活気をお借りしたいという思いがあるので、ぜひ若い人をお願いしたいです。大学生の若いアイデアをもらって、そこで商店街側も頑張ることで、商店街自体が活性化すると考えています。また、商店街を盛り上げるためには、イベントごとばかりをしてもダメで、補助金のクーポンを配るなど、お客さんに商品を買ってもらう工夫を施す必要があると思います。



竜馬通り商店街にて記念撮影

[考察]

商店街調査を行う中で、外国人観光客に向けた英語パンフレットが最も人気を得ていたことが分かった。京都は外国人観光客が旅行に訪れることも多く、英語パンフレットを通じて大手筋商店街の魅力を適切に伝えることができた点が評価されたと考えられる。また、学

生とよくコラボレーションをしている商店街ほど、学生のアイデアや活気を商店街の活性化に取り入れたい思いが強いと推察される。これらのことから、地域住民と学生が協力し、「地域創生に繋がるプロジェクト」をともに行うことが重要だといえる。石川県の町家活用プロジェクトにおいては、地域創生のニーズがある町家活用方法を積極的に考え、取り組む必要がある。

[引用文献]

京都・花灯路推進協議会事務局 (2022). 京都・花灯路とは Retrieved from

https://hanatouro.kyoto.travel/?page_id=1976 (2022年12月27日).

龍谷大学 (2017). 伏見大手筋商店街初 龍谷大学政策学部学生が商店街の「英語観光マップ」を作成し贈呈 Retrieved from <https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-537.html> (2022年12月27日).

龍谷大学 (2017). 「京都伏見まちづくり」プロジェクト 龍谷大生が地元の商店街を彩り豊かな「花回廊」に 11月6日(金) 竜馬通り商店街、12月4日(金) 納屋町商店街にて作業実施 Retrieved from <https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-6426.html> (2022年12月27日).

龍谷大学深草町家キャンパス 視察

2022年10月15日視察

参加学生 桐原慎治・西彩華・藤井亮介
取材に応じてくださった方 龍谷大学 川崎様
京まちや七彩コミュニティ様
執筆 桐原慎治

1. 活動の目的

龍谷大学深草町家キャンパスはその性質上、私たちが未来テーマに対する具体的課題のひとつとして考案していた「県内に現存する町家ないしは空き家を用いた、石川県内の学生が各々の学部の特長を活かせる場の創出」に通じるものがあると考えられた。先行事例として視察し、運営や活動の詳細を知り、新たな視点を得ることを目的に視察を行った。

2. 活動の内容

実際に町家キャンパスを見学し、町家キャンパスを活動拠点としている「京まちや七彩コミュニティ」のメンバーから利活用事例、活用における実情、龍谷大学の職員である川崎さんから当該キャンパスの設立に至るまでの経緯などのお話を伺った。



<キャンパス概要>

京都府伏見区にある町家を改築後に龍谷大学が借り受け、平成25年に開設したもの。母屋、離れ、中庭、土蔵で構成される比較的大きな町家である。



<利活用事例>

- 町屋 DE うどん

うどんづくりの作業を通じた多世代・多文化交流。

- 町家 DE 交流サロン（高齢者対象）

高齢者を対象とした地域の居場所（サロン）を町家キャンパスに開設し、学生と高齢者が集い、人生や家族、趣味や生活など様々な話題を語り合いながら学び合う場づくり。

- 勉強会

龍谷大学の文学部・教育学部の学生による、中学生を対象とした勉強会。

- 学生団体「京まちや七彩コミュニティ」

町家キャンパスをフィールドに活動する学生団体による地域の小学生その保護者や留学生を対象とした居場所づくり（サードプレイス） 活動企画立案から広報、リハーサルや運営など全て学生が行なっている。

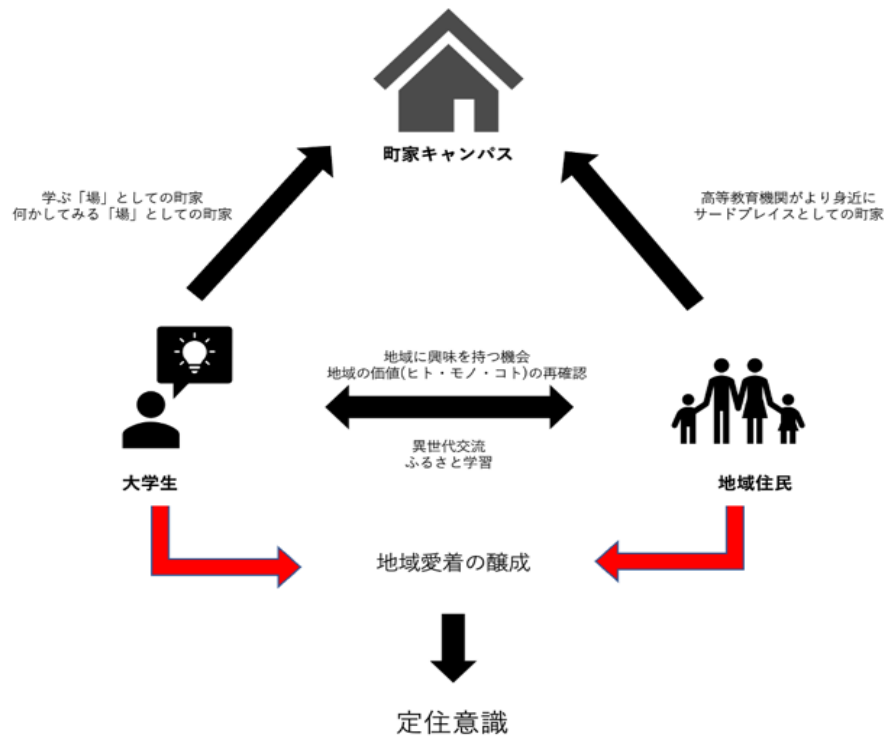
- ゼミでの利用

3. 考察

今回視察した深草町家キャンパスは、金沢にも多数存在する「町家」を利活用した事例であった。町家は単に空き家では無く、その地との長い関わりがあり、文化的価値を有した建造物であるため利用には制限がかかるというデメリットがある。しかし一方で、地域住民が親しみを持ちやすい側面、町屋をキャンパスとして利用することにより、そこで活動する学生がその土地のことをより好きになるきっかけにもなりうる側面があることがわかった。

菊池ら（2022）によると、出身地域に対する定住意向に関して、「地域愛着」が最も重要な影響要因であると明らかになっている。また、山本ら（2016）は地域にくり返しかかわる活動、特に地域の人とかかわる活動によって、参加者の、地域に対する想いの度合いが「地域へ肯定的な印象」から「地域愛着の形成」へと高まると述べている。

町家を用いた施設で、継続的に地域の人とかかわり地域の文化と接する機会を創出することにより、学生（大学生のみならず、交流している小中高生も含む）が地域のヒト・モノ・コトに興味を持ち、また、好きになり、更には誇りを持つことがあれば、学生の地域愛着の形成を望むことができる。学生の人生設計の中に地域を組み入れる可能性が生まれると期待される。



<引用文献>

- ・「京と融合 町家キャンパス」(読売新聞、2012年12月26日)
- ・龍谷大学深草町家キャンパス パンフレット
- ・大学進学時に移住した地方都市出身者に着目した地元定住促進に関する研究(2022、菊地晃平、鈴木 聡士、都市計画論文集)
- ・「地域への愛着」形成過程に関する一考察 — 「町探検」の実践分析を通して — (山本銀兵、加納 誠司、愛知教育大学教職キャリアセンター紀要)

(iv)金沢町家情報館さんへのインタビュー

2022年11月21日

参加者：吉田成希・藤井亮介・西彩華

取材に応じてくださった方 金沢市役所 文化スポーツ局 歴史都市推進課 田丸 様
NPO 法人金澤町家研究会 様

報告者：西彩華

1, 活動の目的

龍谷大学における視察では、京都の町家の活用事例について調べた。町家を石川県で実際に活用する場合、石川県における町家の現状を知る必要がある。そんなとき、金澤町家の相談窓口でもあり町家に関する情報を発信している「金澤町家情報館」という施設の存在を知った。そこで私たちはその施設を訪れ、金沢の町家の現状と対策、そして未来の展望について調査することにした。

2, 活動内容

金澤町家情報館を訪問し、そこで金沢の町家に携わるお二人の方からお話を伺った。

～取材で分かった町家の現状～

町家というのは建築基準法以前につくられた木造建築のことで、今は二度と同じ工法で建てることはできない点で、希少な価値を持つ。現在金沢には、町屋が約 6000 軒存在すると言われているが、町家の数は年々減少している。

Q, 金沢でこれまで町家が活用されていた例はありますか？

A, はい、あります。かつては町屋をドミトリーという形で金沢の学生に部屋を提供していました。部屋を安く借りられるという点が魅力的だったのですが、学生が大学を卒業すると次に入ってくる学生がいないために、今はもうなくなってしまいました。学生が次の学生を紹介する制度もあったみたいですが、あまり上手く機能しなかったと聞いています。

Q, 町家を貸す、という点について問題はありますか？

A, 町家を貸すとなると、建物の構造を安全に保つために、手入れが必要ですよね。そうになると、町家の改修を所有者がすることになり、費用の負担が大きくなってしまったために町家の提供はなかなか難しいですね。

Q, 現在、金沢で町家を活用している団体等がありますか？

A, 現在は、横安江町にある「新保屋」さんがレンタルスペース・コワーキングスペースとして町家の提供をしていますよ。昔は履物卸問屋だったので、建物の外観も内観もまさに町家そのものなんです。そこではよくワークショップなどが行われていて、地域の人の憩いの場となっています。

Q, 龍谷大学では学生が主体となって町家を利用している団体があったのですが、金沢にも学生を中心に町家活動されていますか？

A, 金澤町家学生会議というものがありますが、コロナの影響もあって思うように活動できず、現在は実質一人しかいません。

ぜひ参加したいです！

話の流れでチーム Machiya の二人（藤井・吉田）が加入することにしました。

<金澤町家情報館>

- ・金澤町家情報館は金澤町家の再生活用モデルとして自由に見学ができ、金澤町家再生活用事業などの事例も見るができる。
- ・金澤町家の勉強会や金澤町家巡りなどのイベント・茶道、邦楽などの文化体験イベントなどが開催されている。
- ・金澤町家に関する相談（金澤町家再生活用事業の補助金手続き、金澤町家の売買・賃貸、金澤町家を活用した起業・移住等）に対応している。
- ・前日までの申し込みで、一部を会議室として使用することが可能。



写真1 大きな吹き抜け



写真2 建物の前には藪戸（しとみど）があり、開閉可能

3.考察

今回の取材を通して、重要な価値のある金澤町家の活用をより促進させるために、町家の活用に協力的な所有者に声かけをしてみるとよいのではないかという意見が議論の中で出た。所有者の負担を減らすために、石川の数ある高等教育機関が連携して町家の維持・管理をしていくとよいのではないか、という結論に至った。町家を積極的に活用し、若者が学生の中に石川や地域の人々に愛着をもってもらうことで、大学を卒業した後、石川に残りたいと思えるようなシステムを提案すればよいのではないか、と考えた。

[引用文献]

・『大学進学時に移住した地方都市出身者に着目した地元定住促進に関する研究』

(都市計画論文集 菊地晃平 鈴木聡士)

・『「横安江町商店街 新保屋」国登録有形文化財・金澤町家のレンタルスペース、コワーキングスペース Nigiwai Space 新保屋 | 金沢市 (shimboya.com)

[引用文献]

・金澤町家情報館 (kanazawa-machiyajouho.jp)

(v)活動記録

報告者：吉田成希

～6月11日～ (しいのき迎賓館)

○参加者：川北、桐原、中出、西、藤井、吉田

内容：・「私が考える石川の未来」をそれぞれ発表

→ブレインストーミング

・昨年度の活動内容紹介

・プロジェクトの進め方

☆初めての対面でのミーティング。それぞれが事前に考えてきた「私が考える石川の未来」を発表しそれについてのブレインストーミングを行。中には、「リモートワークに最適な街」や「アバターを活用した活性化」など、様々なアイデアが立案されており、多くの選択肢がある分、石川の課題もこれだけあるということに驚いたミーティングだった。

～6月23日～ (しいのき迎賓館)

○参加者：川北、桐原、中出、西、藤井、吉田

内容：・人口減少抑制成功事例の事前課題を発表

→ブレインストーミング

☆「人口減少の抑制に成功した事例」を各自事前にスライドでまとめたものを発表し、ブレインストーミングを行った。子育てなどでの支援や、環境改善、制度など様々な要因で成功する事例が数多く挙げられ、ここから私たちのチームの方向性をまとめるためにこのような事例を取り入れつつ、課題解決に必要なと感じた部分を取り入れたうえで再び「私が考える石川の未来」を考えた。

～7月10日～ (しいのき迎賓館)

○参加者：川北、桐原、中出、西、藤井、吉田

内容：・チームの方向性の決定

・各自やりたいことの発表

・ブレインストーミング

・「専門性を活かした町家活用プロジェクト」

☆この回で私たちの方向性は「学生の専門性を活かした空き家活用プロジェクト」に決定。空き家やシャッター街が増加しているという課題に対し、前回の前例を参考にし、そういったものをうまく活用することが出来ることを取り入れた。その中に大学が多い石川県ならではの強みをプラスすることでさらに人口増加の一步となるというとても理にかなった方向性になったと感じた。

～7月18日～ (オンライン)

○参加者：川北、桐原、西、吉田

内容：・中間報告会発表資料作成

☆中間報告会に向け、チームで資料作成を行った。互いに試行錯誤を繰り返し、資料作成にあたる瞬間に、このチームのチームワークを再度実感し、また、チームの方向性を再確認するという側面でもとても重要なミーティングであったと感じた。

～7月30日～ (しいのき迎賓館)

○参加者：川北、桐原、中出、西、藤井、吉田

内容：・中間報告会

☆準備したものを見せつけるという意識で報告会に挑んだ。質疑応答では私たちになかった視点からの質問もあり、目指す方向性に対する重要な意見が得られた。ほかのチームの報告からもこのチームにはなかった視点や考え方もありそれぞれのチームが学びのある機会となったように感じた。

～10月5日～ (オンライン)

○参加者：桐原、中出、西、藤井

内容：・フィールドワークに向けたミーティング

・質問、行動プラン 等

☆フィールドワークに向けた事前準備のミーティングを行った。実際に質問する内容や行動プランなどを考えるにあたって、チームの雰囲気も一層まとまり、当日がより楽しみとなったミーティングだった。

～10月15日～ (京都)

○参加者：川北、桐原、中出、西、藤井、吉田

内容：・フィールドワーク当日 (京都)

・龍谷大学 (町家キャンパス調査)

・伏見筋商店街、龍馬筋商店街

☆京都でのフィールドワークでは主に龍谷大学で話を聞きに行くチームと商店街を調べるチームに分かれて調査を行った。町家に関する情報や、商店街活性化に関する情報が得られた。方向性を考えるにあたり重要な情報が得られ、またチームの雰囲気もよりよくなったと感じたフィールドワークであった。

～11月9日～ (オンライン)

○参加者：川北、桐原、中出、西、藤井、吉田

内容：・フィールドワーク成果報告

・成果報告

・今後の動き

→金沢町家情報館へのフィールドワーク

☆京都でのフィールドワークから得られたものを一度確認し、今後どう生かすかを話し合った。商店街の活性化の話や、町家の話から今後さらに深掘して調査を行うこととなった。また、思い出話なども交えながらのとても楽しいミーティングとなった。

～11月21日～ (金沢町家情報館)

○参加者：西、藤井、吉田

内容：・金沢町家情報館フィールドワーク

・夜→振り返りミーティング (オンライン)

→○参加者：川北、中出、西、藤井、吉田

☆町家を深掘するべく、実際に「金沢町家情報館」に赴き、町家に関する情報を調査した。知らなかった情報や、重要な情報が得られ、私たちの方向性と練り合わせることでさらに良いアイデアも出すことが出来たフィールドワークだった。

～12月10日～ (金沢町家情報館)

○参加者：藤井、吉田

内容：・金沢町家情報館ペーパークラフトイベント参加

☆前回のフィールドワークの際に、イベントを開催するという話を聞き、実際に参加させていただいた。実際に町家が地域活性に貢献されていることを実際に体験することで実感することが出来た。町家に関する学生団体があることも知り、得られるものが多いフィールドワークとなった。

～12月18日～ (しいのき迎賓館)

○参加者：川北、中出、西、藤井

内容：・総まとめ

・最終報告会準備

☆この回で、これまで行ってきた活動の総まとめをし、最終報告会に向けての準備を始めた。フィールドワークや日々の MTG を振り返り、その中で入手した情報を整理し、分担しつつ話し合いを重ねながら報告書の作成を始めた。ホワイトボードにまとめたものを改めて振り返ると、一つの課題に 6 人で向き合い解決に向けて活動できたということ、またその中の思い出などがフラッシュバックしてきた。

(vi)ゴール・提言

報告者：藤井亮介

1.調査で分かったことの簡単なまとめ

○商店街

- ・大学と商店街が適切に連携することで、地域を活性化できること
- ・外国人観光客に向けたパンフレットの作成・配布は人気非常高的なこと
- ・金沢においても、教育・研究機関が連携し、地域の課題に取り組む仕組みを作る必要があること

○龍谷大学

- ・景観や歴史的価値を理由として、町家は地域住民が親しみを持ちやすいこと
- ・町家の利活用は学生がその土地のことをより好きになるきっかけになること、そして学生がその地域により関わりを持とうと考えること
- ・懸念点の一つとして、利用に制限がかかること

○金澤町家情報館

- ・ドミトリーは値段でいえば学生にとってはお得だが、次に入ってくる学生がおらず、継続性はあまりないこと
- ・町家の改修を所有者以外のものを行うことで、所有者の負担がかなり軽減され、実現可能性は高まること
- ・実際に町家を活用している団体は金沢にも存在していること

2.提言

これらの調査から、町家に関する既存の取り組みに、

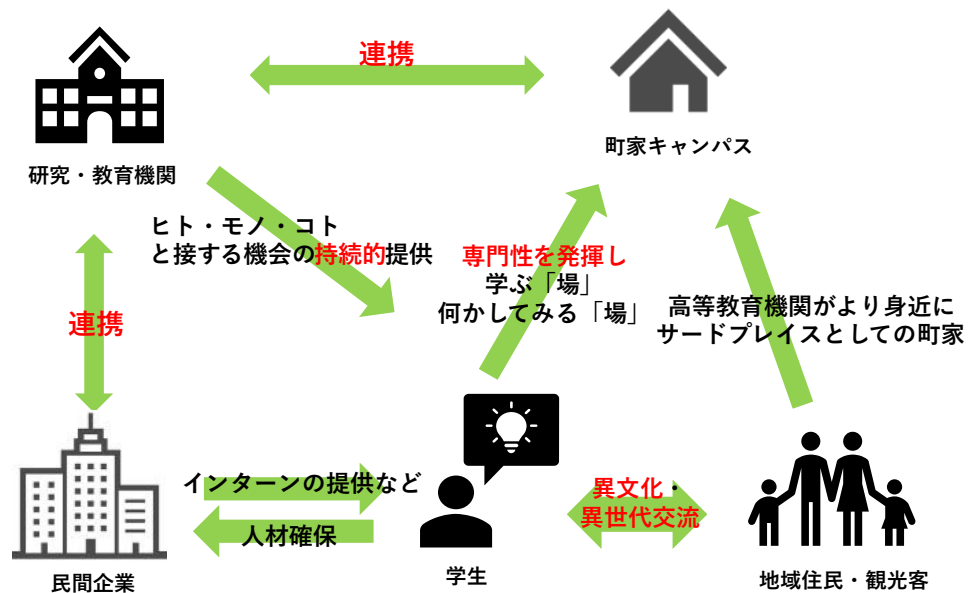
- a 教育・研究機関が継続的に連携する
- b 学生がより町家を使いやすくする

の二点の要素を加えることで、金沢の町家文化、ひいては石川県の人口減少に歯止めをかけることに貢献するのではないかと考えた。

これを踏まえて、チームで考えをまとめ、チーム Machiya として提言をまとめた。

チーム Machiya の提言は「学生が研究・教育機関間の垣根を越え、専門性を活かしつつ、地域住民・観光客と継続的に交流を深められる町家プロジェクト」である。

【図解】



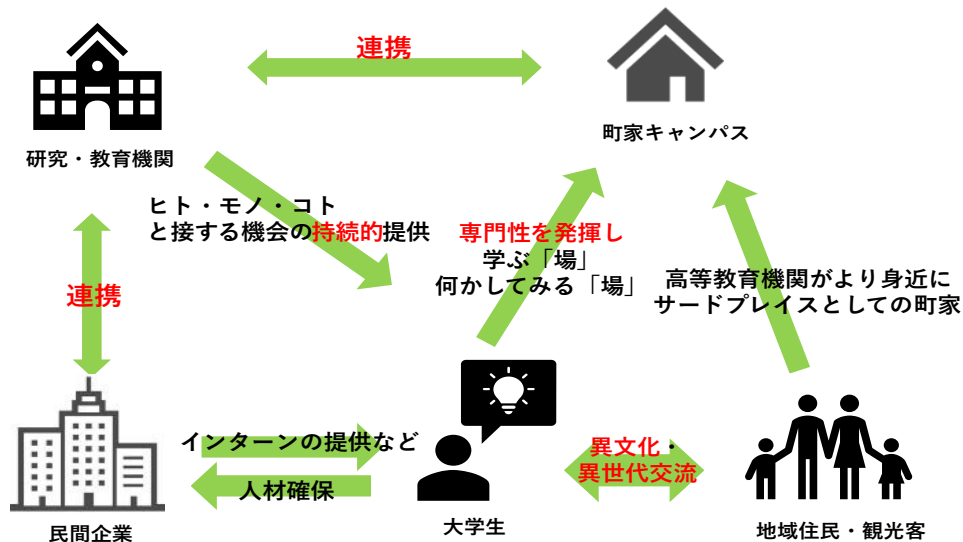
学生は大学のカリキュラムを通じて、工学や語学などの自身の専門性発揮しながら町家に関わっていく。専門性を活かす例として、以下が挙げられる。

- ・国際系の学部が連携して、町家の外国人パンフレットを作って配布する
- ・食品開発系の学部が中心となって連携して加賀野菜を使った料理教室を開催する
- ・法学部の学生が連携して、気軽に相談できる法律相談所を開く
(法律相談所に関しては、誤った情報を学生が伝える可能性も十分に考えられるため、他の例よりもハードルは高い)

さらに、必ずしも一つの大学のカリキュラムとする必要はまったくなく、今まさに我々がこのプロジェクトを通じて行っているような、大学間の垣根を越えることもできる。例えば北陸大学・金沢大学・石川高専の工学専門の学生が集い、地域住民や観光客との交流をしながら、町家の可能性について議論を深めていくといったこともできる。さらにいうと、大学も専門も違う学生同士が、町家を通じて一つの目的・目標に向かって自身の強みを活かすこともできる。例えば、「外国語のパンフレットを限られた予算で作成し、すべて頒布する」といった目標に対して、語学を専門とする学生が文章作成に当たり、金沢美術工芸大学の学生が中心となってパンフレットのデザインやレイアウトを模索し、マーケティングを専門とする学生が、どのタイミングでいかに配るべきかを考えるとといった、分野横断型の連携が可能となるのである。

以上のように、この町家プロジェクトは、学生が自身の強みを最大限活かすことができる点、機関・専門・年齢を問わない幅広い交流をすることにより、新たな出会いに巡り合える点が大きな利点となってくる。

2. ゴール



このシステムにより、学生が専門性を活かしつつ、異世代交流・異文化交流を深めることで、地域の価値を再確認する。さらに、そこで出会った町家に関わっている専門家の方々や地域住民と接することで、通常のインターンシップやカリキュラムにない生の体験をすることができる。自身の強みを活かした、地域に根差した生の体験を通して、町家もとい石川県自体に親しみを持ってもらい、県内就職の増加を狙う。

そして、県内に就職した人たちの中で、OBとして町家に関わり続け、次世代の育成に貢献する人も増えていくと考える。その次世代がさらに県内に就職する、といった好循環を生み出すことができる。そして石川県の人口減少のうち特に課題となっていた、20代の圧倒的な転出超過を中長期的に改善させ、最終的には石川県全体の人口減少に歯止めをかけることができる。

[引用文献]

- ・『京都・花灯路とは』(京都・花灯路推進協議会事務局 2022/12/27)
(https://hanatouro.kyoto.travel/?page_id=1976)
- ・『伏見大手筋商店街初 龍谷大学政策学部学生が商店街の「英語観光マップ」を作成し贈呈』(龍谷大学 2017)(<https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-537.html>)

・『竜谷大生が地元の商店街を彩り豊か“花回廊”に 馬通り商店街、12月4日（金）納屋町商店街にて作業実施』（龍谷大学 2017）（<https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-6426.html>）

・金澤町家情報館（kanazawa-machiyajouho.jp）

・『京と融合 町家キャンパス』（読売新聞 2012/12/26）

・龍谷大学深草町家キャンパス パンフレット

・『大学進学時に移住した地方都市出身者に着目した地元定住促進に関する研究』

（都市計画論文集 菊地晃平 鈴木聡士）

・『「横安江町商店街 新保屋」国登録有形文化財・金澤町家のレンタルスペース、コワーキングスペース Nigiwai Space 新保屋 | 金沢市（shimboya.com）

◇活動に対するコーディネータからの評価

チーム Machiya コーディネータ
石川県立大学 食品科学科 小椋賢治

石川未来プロジェクトの特徴は、大学コンソーシアム石川加盟校（大学，短大，高専）の学生・生徒による所属の垣根を超えた活動であることです。私はこのプロジェクトに2021年度から参画して、今年度はコーディネータ2年目となりました。2022年度は、コロナ禍による行動制限が緩和されたことから、私は、このプロジェクトは対面とオンラインの活動をミックスして、それぞれの長所を取り入れたものにして考えていました。

チーム B (Machiya) の最初の数回のミーティングは、あえて対面で実施してメンバー間のコミュニケーションを確立することに注力しました。その後は、議題や内容に応じてオンラインと対面を切り替えながらミーティングを重ねました。その結果、このチームはコミュニケーションが非常に活発で、フィールドワークのプランも自分たちで率先して計画するなど、とても主体的に活動していたという印象です。

オンラインでの活動は、対面での活動とは異なり、オンラインツールの活用が欠かせません。議事録を残すためのオンラインホワイトボード (Miro)、コミュニケーションツール (Slack) といったツールは、オンラインだけでなく、対面活動にも役に立ちました。

プロジェクト学習では、学生・生徒とコーディネータが密接にコミュニケーションをとることが重要です。今後、石川未来プロジェクトを端緒として、大学コンソーシアム石川がコアとなり、加盟校の連携によって学生・生徒・教員が協働学習できる場が形成されることが期待されます。

チーム B (Machiya) の目標もまさに大学間連携による地域活性化にあります。京都での

フィールドワーク、町家情報館でのインタビュー、チーム内での議論などの活動を重ねるうちに、石川県の未来のためには、学生と地域の人々が連携して活動することが重要だという結論に達しました。そのために、石川県の特徴ある文化遺産である町家を活動の場として活用する、という提案を掲げました。今後、チーム B (Machiya) のメンバーの理想が実現できるよう、大学コンソーシアム石川とその加盟校が協力して学生の活動の場を作っていくことは、教職員に課せられた課題ということになります。

チーム B (Machiya) は、当初のメンバー6人が誰ひとり欠けることなく、最後まで走り切ってくれました。このことはコーディネータとして喜びにたえません。メンバーのみなさん、ありがとうございました。理想の実現のために、これからも町家で活動していきましょう。

活躍されている社会人と学生が就活前につながる ☆石川での仕事の魅力イベントの開催

金城大学 医療健康学部 准教授 神谷晃央

金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 准教授 篠田 隆行

菅田 悠稀 ・梅田 大輝 ・奈良 妃夏 ・中島 詩聞 ・今瀬 希穂（中間報告会まで参加）

1. 活動の成果要約

我々Cチーム「produce contact」は、未来テーマである「人口、100万人。」—2050年における石川県の人口—に向けて、SDGsを踏まえた議論から「人とつながり合う社会へ」をチームテーマに掲げた。進学時の県内転入超過と就職時の転出超過の事実からジョブカフェ石川様との共催で、「活躍されている社会人と学生が就活前に繋がる☆石川での仕事の魅力イベント」を企画・運営した。学生と企業、異なる教育機関の学生同士が繋がり合う機会をプロデュースした。

2. 活動の目的

活動の目的は2点ある。1点目は学生の成長についてである。自己管理する力・計画立案する力・他者とコミュニケーションする力などの社会で求められる学力以外の能力を高められる課題解決型のグループ活動とする。また、個々の意見を活かしながらも1つのチームとして協働し、自分たちのアイデアを実践に落とし込む過程で、学生にさまざまな気づきを得られることを目的とする。

もう1点は、未来テーマへの取り組みとして、石川での仕事の魅力を知り・創作し・発信することである。「活躍されている社会人と学生が就活前につながる☆石川での仕事の魅力イベントの開催」によって、未来テーマの実現に近づける糸口を見つけることを目的とする。

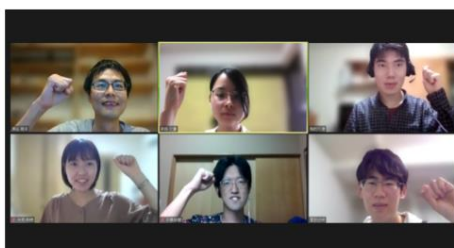
3. 活動の内容

<利用ツールと進行>

CチームはZoomによるオンラインミーティングを中心に進めた。各回の議事録や資料はGoogleドライブに保存・共有した。チームの連絡はLine、アンケートはGoogleフォームを利用した。進行は中間発表までに延べ10回、成果報告会までに延べ26回のミーティングを重ねた。

Cチームの利用ツールと進行

Zoom会議



zoom 毎週月曜18:30

(今瀬さん中間発表まで参加)

各回の議事録

↳ Google スライド
Google ドライブ

連絡事項

↳ Line

企業・学生募集 アンケート調査

↳ Google フォーム

Cチームの利用ツール

Cチームの進行

各会議の詳細

【前半】

- 1 5/29 個人のプロジェクト構想の発表
- 2 5/30 ミーティングのスケジュール作成
- 3 6/6 問題の洗い出し, 整理
- 4 6/13 サブテーマ, メインテーマ決定
- 5 6/20 チーム名称, 目標作成
- 6 6/28 石川県人口動態の分析
- 7 7/4 人口減少に対する石川県の取り組みの分析
- 8 7/11 具体案の作成
- 9 7/18 スライド作成
- 10 7/25 事前発表会

7/30 中間発表会

【後半】

- 11 9/9 今後の活動の方針1
- 12 9/20 今後の活動の方針2
- 13 10/8 ジョブカフェ石川が話題にあがる
- 14 10/17 ジョブカフェ石川について発表
- 15 10/24 ジョブカフェ石川訪問準備
- 16 10/31 ジョブカフェ石川説明用資料の作成
- 17 11/5 ジョブカフェ石川訪問
- 18 11/7 企業向け募集要項の作成1
- 19 11/14 企業向け募集要項の作成2
- 20 11/21 企業向け募集要項の確認
- 21 12/5 学生向けの募集要項とチラシ完成
- 22 12/12 学生に向けた事後アンケートを作成
- 23 12/19 募集状況、イベント運営の詳細アイデア検討
- 24 1/10 同上
- 25 1/16 同上、成果報告スライド取り掛かり
- 26 1/23 成果報告会スライド作成、事前発表

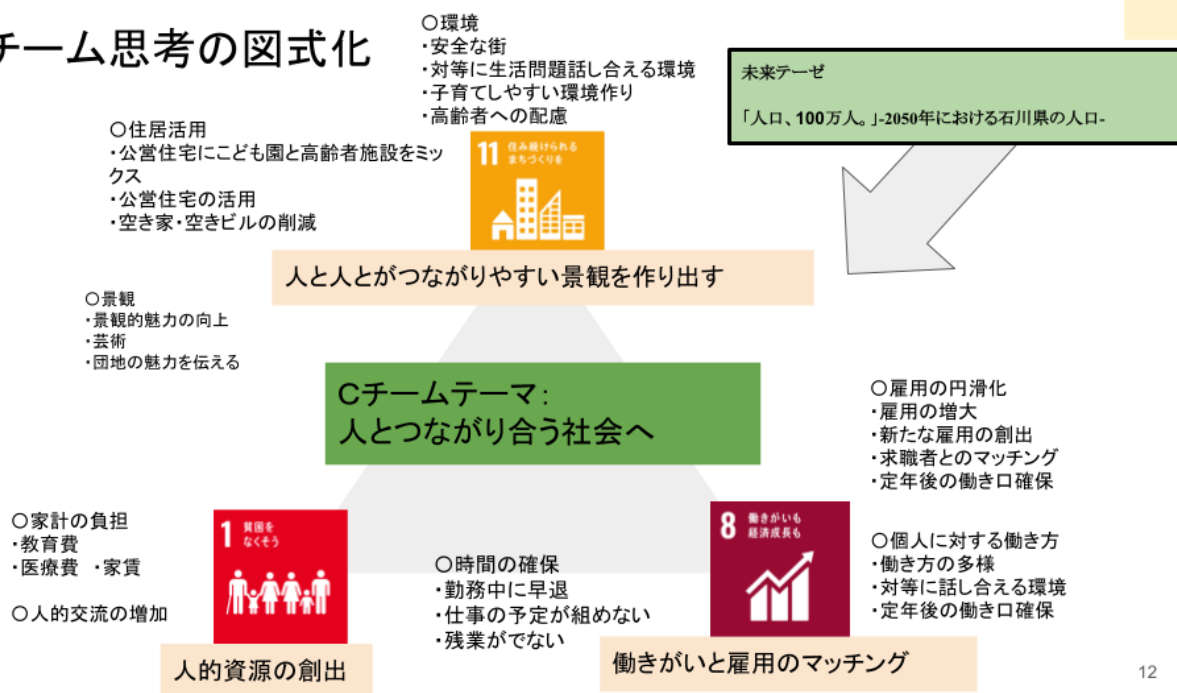
- 1/12 石川での仕事の魅カイベント【A企画】
- 1/14 石川での仕事の魅カイベント【B企画】
- 1/21 石川での仕事の魅カイベント【C企画】
- 1/28 成果報告会

Cチームの進行

<Cチームのテーマとチーム名>

SDGsの項目別に全員の意見を集約した結果「1. 貧困をなくそう」に関連して「人的資源の創出」、「8. 働きがいも経済成長も」に関連して「働きがいと雇用のマッチング」、「11. 住み続けられるまちづくりを」に関連して「人と人がつながりやすい景観を作り出す」というサブテーマを得た。このサブテーマから「人とつながり合う社会へ」をCチームのテーマとした。このテーマに基づき議論した結果、Cチームの名称を「produce contact」とした。

Cチーム思考の図式化



Cチーム思考の図式化（チームのテーマ）

<石川の人口問題の現状とアプローチ方法>

大学等進学による転入は超過しているが、就職時の転出が多く、大学卒業後の就職を機に県外への転出が多い。この点を我々のアプローチ対象とすることにした。活躍している社会人と就職活動前の学生とが繋がる機会をもつことで、石川での仕事の魅力に気付いてもらうイベントを企画することにした。

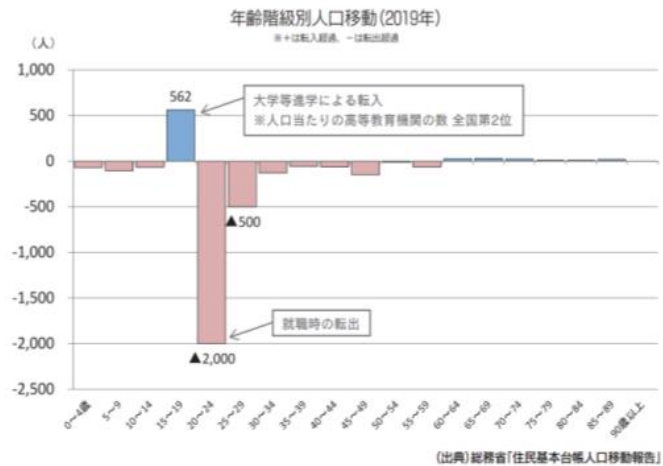
背景 石川の人口問題 現状

・10代後半 → 転入超過

・20代 → 大幅な転出超過



大学等への進学時に県外からの転入が多く、大学卒業後の就職等を機に、県外への転出が多い



石川県(2020)「いしかわ創生人口ビジョン 改訂版」より引用

石川の人口問題の現状

<ジョブカフェ石川様への情報収集と協力依頼>

ジョブカフェ石川様は、石川県が運営する若者のための総合就職支援機関で、就職に関するさまざまなサービスを実施している。就職支援セミナーやイベントも執り行っている。学生とジョブカフェ石川様がコラボレーションしてイベントを開催することは今まで例がなかったと伺い、イベント開催に向けて主に企業への参加募集の協力をお願いした。

<4つのイベントの企画>

4人の学生メンバーそれぞれが1イベントを管理・運営することにした。

<事後アンケートの実施>

参加学生から事後アンケートを聴取し、イベントの成果を検討することにした。

<Youtube 動画の作成>

イベントの様子から Youtube 動画を作成し、就職活動前の早い段階において企業との繋がりを持つイベントの意義をアピールする(現在作成中)。

4. 活動の成果

<石川での仕事の魅力イベントの結果>

活躍されている社会人と学生が就活前に繋がる☆石川での仕事の魅力イベントの結果を以下の図に示す。3つのイベントまで終了し、4つ目のイベントは2月18日に控えている。3つのイベントに参加した企業の方は12人、学生は21人であった。

企画A(担当:梅田)

イベント名:「県内企業と県内学生の会談会」

開催日:1月12日 15時~16時40分 場所:公立小松大学粟津キャンパス

参加者:企業の方4名、学生6名

”CO2排出量を減らす方法”、”仕事と育児”をテーマに企業の方と学生が話し合った。

企業の方一人、学生二人でグループになってもらい

- 一人で意見を付箋に書く(5分)
- グループで話し合う(10分)
- どのような意見が出たか、学生が発表する(5分)

(1つのテーマにおける討議の時間配分)



企画 A (担当 : 梅田)

企画B(担当:菅田)

Job meeting with TEA Touch! Enterprise's Active person

場所:しいのき迎賓館 日程:1/14(土)15時~16時30分

参加人数 学生:6人 企業:2人

6人の学生と企業の方とのお茶会

→学生の間また、学生と企業の間交流を設ける

→石川県内の企業への興味、就職につなげる



企画 B (担当 : 菅田)

企画C(担当:奈良)

開催日:1月21日 15:00~17:00

参加者:企業6名、学生9名、全15名

学生と企業を交えてのグループ活動

● 当日の進行

15:00	開始
15:05	企業説明(各10分程度、4社)
15:55	グループワークの概要説明
16:00	全体での自己紹介
16:10	グループワーク開始
16:50	学生のみグループチェンジ(10分毎)
16:50	グループワーク終了
16:55	最初のグループでのまとめ(5分間)
17:00	グループワークのまとめ、感想
17:00	終了

石川での就職を考えるあなたに！
企業の方と 交流できるグループ形式でのイベント

活躍されている社会人と学生が就活前につながる石川での仕事の魅力イベント
多様な学生と企業で作る石川の魅力

石川の魅力を創造し拡散しよう！
大学コンソーシアム石川が主催する「石川未来プロジェクト」の一環として、学生と地域の学生と企業との交流を促すイベントを企画しました。
上記の趣旨を踏まえ、下記のとおりです。

● 場所
しいのき迎賓館
セミナールームB
石川県石川市、しいのき迎賓館
〒924-8602 石川市東通町1-1-1

● 講師の企業様方
株式会社どんたく
株式会社ヴァージョン
株式会社 森八
株式会社Asian Bridge

● 申し込み方法
Google Formsよりお申し込み可能です。
(https://forms.gle/3888888888888888)

● 問い合わせ先
石川工業高等専門学校 総務課 4号 室 奈良 奈良
〒924-8602 石川市東通町1-1-1

1.21 Sat.
15:00-17:00(受付開始) 参加費：無料

会場マップ

＜主催＞
大学コンソーシアム石川「未来プロジェクト」、セミナー、しいのき迎賓館、石川未来プロジェクト（シニアアカデミー）

＜協賛＞
しいのき迎賓館、石川未来プロジェクト（シニアアカデミー）

ISica 石川未来プロジェクト
500
石川未来プロジェクト

企画C (担当:奈良)

企画D(担当:中島)

- ・開催予定日:2月18日 15時~16時30分
- ・場所:金城大学笠間キャンパス
- ・参加予定者:20人
- ・イベント名:「学生のうちに知っておきたい
地域リハビリテーションの魅力」
- ・内容:①地域リハビリテーションについての講義
②実際の症例に対してグループで対応方法を考える
→グループごとに発表を行う

活躍されている社会人と学生が就活前につながる☆
石川での
仕事の魅力イベント

大学コンソーシアム石川が主催する「石川未来プロジェクト」の一環として、学生と地域の学生と企業との交流を促すイベントを企画しました。

～from地域医療・福祉編～

◎学生対象
日時: 令和5年2月18日(土) 15:00～16:30
会場: 金城大学笠間キャンパス 福祉棟2階 H01119702(1号棟内) 2号室
内容: 「地域リハビリテーションの魅力」

詳細: 1. 地域リハビリテーションの概要について
2. グループワーク
3. 企業と学生が連携して地域医療を支援する事例について
4. 質疑応答で質問を解消しよう！

講師: 石川工業高等専門学校 地域医療学 准教授 中島 奈良
企業: 石川未来プロジェクト 企画 奈良 奈良

石川未来プロジェクト

ISica 石川未来プロジェクト
500
石川未来プロジェクト

企画D (担当:中島)

<事後アンケートの結果>

事後アンケートは3つのイベントに参加した延べ21人の学生に対して依頼し、15人から回答を得た(回答率71%)。結果の図を次ページに示す。

事後アンケート結果1より、参加した学生は高専1年生から修士1年生まで幅広かった。参加者の4割が石川県内に実家であり、6割が県外であった。

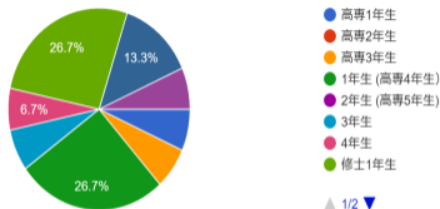
事後アンケート結果2より、「本日のイベントはあなたの役にたちましたか？」については100%が「やや思う～思う」と回答いただいた。「石川県内での就職について魅力は高まりましたか？」については6割が「やや思う～思う」と回答いただいた。

事後アンケート結果3より、「同様のイベントがあれば参加したいですか？」は9割が「やや思う～思う」と回答いただいた。「このような学生主体の就職関連イベントを主催する(サークル活動)活動に参加してみたいですか？」は7割を超える学生が「やや思う～思う」と回答いただいた。

事後アンケート結果1

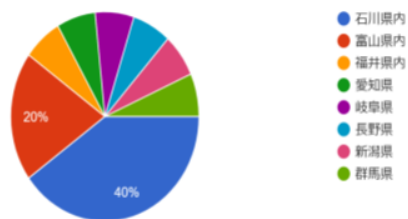
A・B・C企画に参加した学生が回答 15人/21人(回答率71%)

現在何年生ですか？
15件の回答



幅広い学年が参加

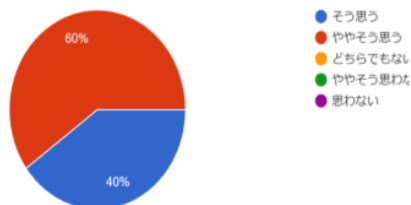
実家はどこにありますか？
15件の回答



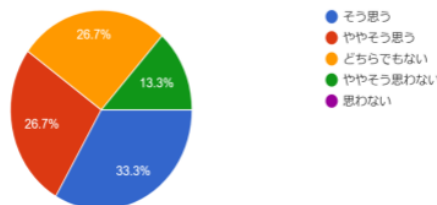
40%が石川県内に実家

事後アンケート結果2

本日のイベントはあなたの役に立ちましたか？
15件の回答



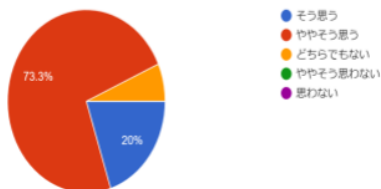
石川県内での就職について魅力は高まりましたか？
15件の回答



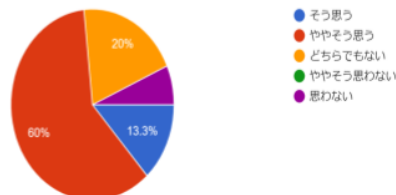
- ・社会に出ている人の知見を知れた
- ・色々な職種の皆さんとお話をして、聞ける機会がとても貴重だったので良かったです
- ・色々な業種の企業とお話を通して石川県の魅力を感じることが出来た
- ・仕事と育児というまだ体験していないことを考え、会社の方々と意見交換ができたので良かった

事後アンケート結果3

同様のイベントがあれば参加したいですか？
15件の回答



このような学生主体の就職関連イベントを主催する...ル(サークル活動)に参加してみたいですか？
15件の回答



- ・交流は大事であると考えため
- ・企業さんと話す機会ありがたい
- ・進学先が石川ということもあり、就職を見据えると非常に有意義と感じられたから
- ・時間的に厳しい
- ・大変そうだから

31

アンケート結果 1~3

<Youtube 動画の作成>

石川未来プロジェクトとして実施したCチームの活動の意義をアピールし、企業との繋がり的重要性を後輩にアピールする内容の動画を現在作成中である。

<結果を踏まえた課題等>

学生募集についてはかなり苦戦をした。しかしながら、事後の学生アンケートの結果から、当イベントは役に立ったと評価いただくことが多かった。また、「ディスカッションの時間が足りなかった」などの声もあった。これらの事実から、学生の立場においてこのようなイベントは有意義ではあるが、参加を決定する材料としては弱く、参加する意義が見いだせていないことが課題だと言える。一方、企業側としては、感想を聴取したところ「コロナ禍で学生と直接出合って話をする機会がなかったのが新鮮でよい経験となった。」「求人を出してもなかなか応募がなくこのような機会は大切にしたい」という声も聞かれ、真剣な企業と就職活動がまだ自分事ではない学生の思いの「差」が感じられた。そのため、このようなイベントのメリットを学生にアピールし、学生主体でサークル活動のように定期的に企業との接点を作るようなイベントを開催できれば理想的だと思われる。また、ジョブ型雇用が導入され始めている時代であり、自らのキャリアアップに意識を向けて積極的に行動する意義を高等教育機関の教育現場で早め早めに学生に伝えることも必要である。

<共催の獲得>

本活動において、ジョブカフェ石川様より共催名義の利用を許可いただいた。企業の募集について、強力なバックアップを得た。

5. 活動に対するコーディネータからの評価

Cチームはチームのテーマ「人とつながり合う社会へ」という活動テーマを6月の段階でスムーズに作り上げ、具体的な実施案の検討に入ることができた。そのため、後半からは具体案の検討と準備に関する時間を確保できたことから、合計3回の「石川での仕事の魅力イベント」まで実施することができた(4回目は2月18日に予定)。学生メンバーはそれぞれにイベント責任者となり、企画・進行を各自アレンジし、関係諸機関に協力を求めながら企業や学生参加者を苦勞の末に集めて、イベントを成功させた点は素晴らしい成果であったと評価したい。チームメンバーの共通の課題は、主体性や責任感を持って自身の意見を磨き、より深い議論ができるようになることであり、宿題として提示しておきたい。